

第Ⅲ編 卷末図集

<はじめに>

■ 最大津波高分布図と浸水予測図を使用する上での注意点

1. 注意点

本浸水予測図は、「対馬海峡東の断層」「周防灘断層群主部」「雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動」で地震が発生した場合に、予測される浸水状況を示したものです。

実際にこれらの地震が発生した場合には、潮位や震源の位置などが想定と異なる場合があります。そのため、浸水状況は変わることがあります。

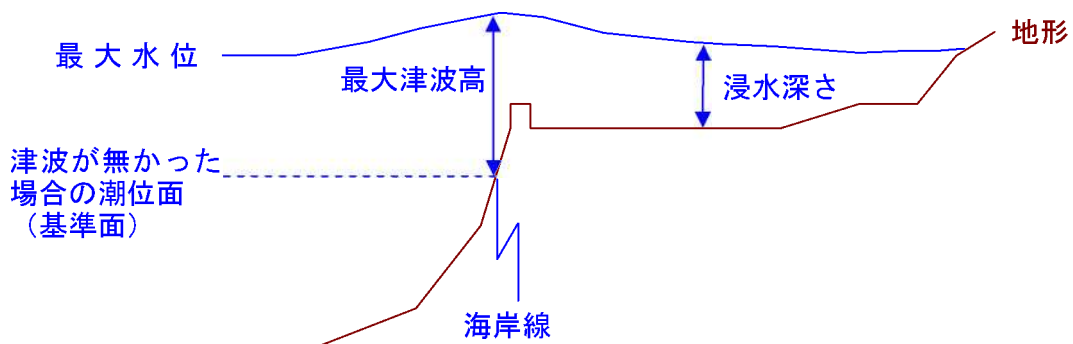
浸水予測は、数値シミュレーションにより行っています。計算条件は次のとおりです。

- ・ 数値シミュレーションは、福岡県全体を 10m 間隔にメッシュ化して行っています。そのため、10m よりも小さい規模の地形的特徴は反映されていません。
- ・ 計算では主要な河川は地形として考慮していますが、その他の中小河川は考慮していません。実際の津波の場合には、そのような中小河川からの流入も考えられますので、注意してください。
- ・ 本計算では海岸堤防や護岸を考慮しており、水門や陸閘は閉じた状態としています。
- ・ 潮位は、県土周辺の沿岸部の観測地点や港の潮位資料を参考として、同じ程度の潮位が観測されている地域をひとつの範囲にまとめ、その範囲毎に潮位を設定しています。

2. 浸水深さについて

浸水深さは、陸地で最も水位が高くなった時の津波の水面の高さを、その場所の地面から測った値です。

なお、最大津波高は、海岸線において最も潮位が高くなった時の水面(最大水位)を、基準面から測った高さです。この基準面は、津波が無かった場合の潮位面としています。



3. 河川や海岸に接したメッシュについて

本浸水予測では 10m メッシュで地形の標高をモデル化して計算を行っています。そのため、河川や海岸に隣接したメッシュでは、陸地に一部入り込んでいた場合であっても、標高が河床や海底面の高さに近いレベルに(陸地よりも低く)設定されている場合があります、その場合は浸水深が大きく表示されています。

■ 浸水深と危険度

浸水深	深さの目安および危険度		
	身体	建物	自動車
0.00～ 0.15m 未満	足首までつかる深さ	床下浸水。	0.1m 程度でブレーキが効きにくくなる。
0.15～ 0.50m 未満	膝までつかる深さ。 0.5m を超えると歩行が困難となる。 さらに流れが(秒速 1m/秒程度)あれば 0.3m 程度でも歩行が困難となる。		0.3m 程度でマフラーから水が逆流して、エンジンに水が浸入。 オートマチック車ではクラッチ板の剥離がおきる。
0.50～	膝までつかる深さ。	床上浸水。	車が浮き、ドアの開

